三０００グラムの重さ

金屋中・３　後藤　ちあり

「お産に立ち会いたい？」
母のこの一言で、私はこの夏休みにすごく貴重な瞬間に立ち会うことになりました。
八月一日、臨月の姉から
「陣痛かもしれないから助産院に行くね。」
と連絡が来たので、車で十五分の姉の家に急いで向かいました。姉にとっては今回が三人目のお産になります。一人目、二人目のときは、私は学校があったため、立ち会うことができませんでした。ですが今回は、ちょうど夏休みで家にいたというのに加え、助産院というのもあり、人生で初めてお産に立ち会うことになりました。出産と聞くと、痛いとか苦しいとかつらいようなイメージを私はもっていました。ですが、迎えてくれた姉にはまだ笑顔があり、心のどこかでほっとしたような気持ちもありました。姉が、
「助産院に電話してみたら、もう少し陣痛の間隔が短くなってから来てと言われた。」
と言ったので、一度家に帰りました。陣痛というものは、いつくるのか予測ができないので、その怖さを乗り越えられる姉の強さを実感しました。
お昼を食べてすぐ、
「陣痛の間隔が短くなって助産院に連絡したから、もう来ていいってことだから、もう向かうね。」
と姉から電話がきました。それと同時に、自分がどきどきして緊張しているのに気づきました。車に乗り、平然を装っていましたが、どんなものなんだろう、何かしてあげられるのか、内心すごくどきどきしていて緊張でいっぱいでした。そんなことを考えているうちに、十五分程度で助産院に着きました。ドアを開けるまで、姉は今どうなんだろう、大丈夫なのかなと言う不安でいっぱいでしたが、まだ横になっておらず、歩いて出迎えてくれた姉の姿を見て、一気に安心することができました。まだ笑顔がある姉の顔を見て、本当に強いお母さんだから、大丈夫だなと感じで、私は不安にならずに最後まで応援してあげようという気持ちでいっぱいになりました。二十分程経つと、姉は助産師さんに呼ばれて処置室へ入っていきました。甥と姪も来ていたので、姉の代わりに助産院内にある遊び場でおもちゃの車やおままごとをして遊んでいました。いろいろ考えて接して遊ぶのが難しくて、いつも楽しんで遊んでいる姉のすごさを実感しました。
三十分程二人遊んでいると、
「もうすぐ生まれるよ。」
と、助産師さんが私たちを呼びに来てくれました。その一言と同時に今まで以上の緊張でどきどきが止まりませんでした。母と一緒に甥と姪を連れて姉のいる処置室に入りました。ベッドの上に横たわっていて、姉の旦那さんが腰をさすっていました。姉はすごく痛そうにしていて、すごく苦しそうにしていました。痛みが弱まっても、すぐに痛みがつよくなる、の繰り返す痛みに耐えている姉を見ているのがすごく辛かったです。赤ちゃんがなかなか出てこないので、早く出てきてと思っていました。ですが、すごく狭い産道を通って生まれてくるのに赤ちゃんも一生懸命がんばっているということを知り、赤ちゃんもすごいんだなと思いました。
「頭が出てきたよ、もう少し。」
と助産師さんが言いました。その一言で、不安な気落ちが一気にわくわくへと変わりました。その一言で姉もがんばることができたのか、赤ちゃんが産まれるまでは、ほんの一瞬の出来事でした。生まれてきたのはとても
かわいい女の子でした。姉はお産の疲れから、何も言っていません

でしたが、とてもほっとした表情をしていました。そんな姉の顔を見て、わたしもほっとしてたし、無事に産まれてくることができたことの感動とうれしさで胸がいっぱいになりました。産まれて五分程しか経っていない赤ちゃんをだっこさせてもらいました。両手におさまるほど小さくて、すごく温かくて、こんな小さな体でも一生懸命産まれてきてくれた大切な命だなと感じました。体重三一一〇グラム、身長五〇センチの小さな命です。

あれから一ヶ月が経ちました。はじめは赤ちゃんに慣れず、怖がって近づかなかった姪も赤ちゃんがいる生活に慣れた様子です。甥は哺乳瓶でミルクをあげるなど、よくお世話をしています。姉は産後の体調もよく、家族が一人増えた生活にも慣れてきた様子です。

さらに六ヶ月が経ちました。ほとんど腰が据わり、一人座りができるようになりました。くすぐってみたり、近くで声を出したりするとえがおになったり、お昼寝から起こされたりすると大きな声で泣いたり、表情の変化もすごく大きくなりました。十五歳の六ヶ月はあまり変化はないですが、赤ちゃんの六ヶ月は大きく成長することが多いなど思いました。離乳食も少しずつ始めていて、うれしそうに食べている姿がとてもほほえましいです。姪が一人増え、成長の過程を見ていく中でこんなことができるようになったんだ、こんな動き、表情もするんだなどの変化を見時価で感じられることに喜びを感じています。たくさんの人に囲まれ愛されている姪を見て、自分もこんなに愛されて育ってきたんだということに気づきました。命の尊さ、愛というものを姪の誕生から教わりました。姉はこれで三児の母になりました。三度目の赤ちゃんの育児ではありますが、三人の母になったということを大変に感じているだろうなと思います。公園に三人で行っても三人同時に見ることになるので、

「ちょっとそこで止まって。」

などの声が常に飛び交っています。そのように大変なことがあっても姉が必ずかけているのは、愛のある言葉です。

「よく出来た、えらいね。」

「ありがとう。」

などと、ほめてあげている様子を育児の中でよく見かけます。

今回、出産という一生に一度の大切な瞬間に立ち会い、お母さんと赤ちゃんの強さを知ることが出来ました。私が今ここにいるのは、母が約十か月間、出産をがんばった大切な証であり、私が一生懸命がんばった大切な証であると思います。この機会を通して、お母さんへの感謝、産んでくれてありがとうの気持ちを再確認することができました。私も、自分ががんばって産まれてきたことを誇りに、一生懸命生きていきたいと思います。

4・9

命にかかわる出来事の描写の中に、自分の気持ちを上手に入れ込んで作文にまとめることができました。たくさんの気づきと感動の中に、ちありさんの大きな心の成長があったことがよく伝わってきます。

（指導　栗　田　昌　和）